京城新報

●新聞料 ▲一部金二錢 一ヶ月前金卅五錢 ●三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰暦 五月十四日
發行編輯兼印刷人 秋山忠三郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番

故李容翊（一）

翠山生

▲棺を蓋ふて事定まる、兎角人間の功過といふものは其の人の死没後に非ざれば斷じて最終の毀譽褒貶を下す譯には行かぬ、併し骸骨既に地下に横はつた后に於ては其の生前に於ける功績は永世萬古に亘りて稱讚すべきであるが其の罪業は可成的之れを云爲することを避けねばならぬ、是れツマリ死者に對する世間の禮儀で斯くの如き事を敢て口にするに於ては之れ言ふ迄もなく死屍に鞭つ苛酷な所爲を免れぬからである。

▲所で吾輩が爰に叙述せんとするは昨夏浦港に於て北邙一片の煙と化せし李容翊の閲歴及行程であるが何も我儕は敢て彼れが生前に於て敢て試みたる行爲の反面をば事更らに誹毀し惡口するやうなことをするのではなく否な寧ろ彼れが一個の微賤より身を起して那れ程の豪き人物と迄なつた經歴から額ては其の手腕及才力の非凡であつたといふことを述ぶるに過ぎないのである、併し其の非凡なる手腕及び才力に伴ふある一班の弊所は是れ其の行き掛り上已むを得ず描かねばならぬ場合があるかも知れぬ讀者幸に之れを諒とせられよ、

▲彼れは兎も角も韓城政界の立者であつた人と成り才氣爛熳花の如く機智金涌泉の如く縱横、技術百端事に處し物に當つて毫も遲滯苦澁の跡を表はさない、而して彼の政界の尤物李根澤とは常に政界の分野に起つて覇を爭ひ雄を競ひ頑然として兩々屈下するの色なく宛かも双龍の珠を深淵に爭ふが如き壯觀があつた、而も彼れをして今少しく天命を延ばさしめたならば彼として又々目醒ましい働きを試みたるには相違ない、

▲サテ彼れが生れ故郷は如何かと尋ねると咸鏡北道は極めて邊鄙な片田舍である（村の名は忘れたが）家は非常に貧困で其の日の生計にさへ迫はるゝ位で彼れが教育などは夢にも覺束なく只終日父に隨つて其他家の日雇やら使ひ走りに追ひ使はれて居つたのである、長ずるに從つて益々父の[illegible]も成つて來たが何時迄も斯く卑き仕事に縷ふつて居つては到底將來一家の繁榮は勿論其の身の出世さへも覺束なき所からある日父とも相談の上意を決して海山遠き元山津へと出稼ぎに渡つた、勿論右を向いても左を向いても[illegible]鐚一文も持たぬ哀れ墓なき有様であるから何か面白い仕事を仕やうと思つた所で何事も出來る筈がない、唯其の幼ない時分から練へに練へ上げた屈強にして頑丈なる一個の肉体を唯一の資本とせねばならぬ、依て彼れは元山津に着するや否や例のブリキ鍍を腰に荷ひて朝夕所々の家に水を運ぶムルチャンスとなつたのである、

▲斯くて彼れは暫くの間孜々として此の下賤な[illegible]に從事して居つたが何時迄も一個の[illegible]ャンスでは更らに將來火が吹けず、の[illegible]らず之が一日の稼ぎ高とても僅少なる所から他に何か香ばしき方法も浮ばぬものかと種々思案を廻らしたが其の結果這度は浦鹽行を思ひ立ち早速同地に赴いて人足と化けたのである、固より意志剛邁加ふるに胸に一物ある彼れのことであるから仕事に掛けては懸命に精力を傾ける其反面には無駄な金とては一厘一毛も費さず努めて節約貯蓄して行つた稼ぐに追ひ付く貧乏なしで總には相當に餘裕も出來たのである（つゞく）

新刊紹介

●趣味● 時代風潮の低下は取りも直さず一般趣味の低下なり胚孕せるものなり本誌號を重ぬる六未だ以て大に世間の反響を買ふに至らずと雖も其の眞摯なる研究忠實なる鼓吹は又以て現代に於ける趣味の下劣に落せるを救ふ上に於て聊か意を強うするに足るといふべし依例表裝雅美内容豐富優勢なる雑誌たるを失はじ（一部廿二錢第六號東京麹町區飯田町易風社發行）

●東京經濟雜誌● 本號の重要記事として「鐵道公債價格維持策に就て」「トラストの利弊」「南滿鐵道社債」等外數項なるが依例有益にして且つ何れも時宜に適應せる記事のみを以て塡めり（一部十二錢第千四百四二號東京々橋區彌左衛門町發行）

●日本經濟新誌● 東京經濟雜誌と相俟つて斯界に重きを爲すもの何れも名家有識者の名論高説を掲げ而して重要記事としては「國庫と金融機關」「保護貿易論」「信用制度の恢復」「外資輸入の好機」等なり

●亞米利加● 口繪には鮮明にして優雅なるヘンリー、ピ、ブィ氏の日本門及び加州大學醫部の二寫眞版を挿入しあり冒頭の記事として「ブライアン氏は如何にして候補者となりしや」この一文見るからに嶄しくブライアン氏の傑躍如として眼前に活現するの感あり（一部十二錢第七十一號東京神田三崎町日米通信社發行）

●英語研究● 初學者には誂へ向きの雑誌なり叙述簡明講話平易些も難解の點なく殆ど[illegible]の跡なく思はず目を通さしむる編者の腕前は確かに[illegible]を抜けるものといふべし（一部五錢第六號東京麹町區富士見町英語研究社發行）

小説 新不如歸（三十四）

篠原嶺葉著

赤坂溜池町の料理店三河屋の一室に、酒酌み交しながら寂に語らう男女の客がある、男は五十前後の立派な身装した紳士で、女は四十三四のデップリとした、色の白い、まだ何處やらに色香のある、これも紳士に劣らぬ立派な扮装である。見した所、年頃と云ひ身装と云ひ、如何にも好一對の夫婦であるが、其の口の利きやう、から凡て、態度を見ると、全く其の夫婦でない事が確めらるゝのである。男は稍酒の廻つたのであらう、目の邊をほんのりと赤くして、手にした杯を啣と飲けて女に差しながら、

「一体此度の事は奈何云ふ理であゝ云ふ事になつたんです、如何にも私は合點が行きませんぢや」

女は杯を受けて、其まゝ下に置き、

「私それを云はれると、眞個貴方に申譯がないんですよ、しかし此度の事は私は全然關係さへも存じなかつたんで、悠う／＼て妾を責うと云ひますから、態いで不服ひ明へたんですけれど、もう貴方が媒酌人も頼まず自身が出掛けて貰ふ事に約束して了つたと云ふのですもの、けれども私が聞いて何なら無理にでも破談させますけれど、御存じの仲でもあり、殊には一旦自分が悟うと極めた事は、誰が何と申しても承入れるやうな性質ぢやありませんから、まあ／＼當人の爲めと思つて爲せて置いて、私は私で考へた事もありますから、後でボツリ／＼考へ通り致さうと、然う思ひました、左に右婚禮だけは爲せたんでございます、決して私が承知の上で爲せた理ではございませんから必ず惡く思はないで下さいな。」

男は巻莨をパッと喫して、

「決して惡くは思ひません、何方かと云へば私の方が無理なんですから、却つて貴方に氣の毒だとは思つて居ますが、實は此處に一つ困つた事が出來たのです、と申すは娘でございますが、敏男さんが御結婚なすつた事を聞きますと其日から御膳も食ないで床に就いて了ひましたぢや、自身では頭痛がすると云つて居ますけれど、私は然うでない事はチャンと知つて居ます、もう今日で四日になりますが、まだ起きやうともるも無理ならん事で、貴方の前でありますから話を爲た事は、島子も能く知つてますから自身ではもう敏男さんの奥様になれる事だと思ひ詰めて居つたんで島子の然う思ふも有理、現在の私でさへ眞實と云へば然う思つて居たんです、決して貴方に不服申す譯ぢやありませんが貴方が確に敏男の嫁に貰つてやると有仰つたもんですから本人も私も然う極つて居たんです、所へ藪耳に水と申さうか、足元から鳥と申さうか、俄に外から御婚禮があつたもんですから、實はあんまりの爲されやうだと、口にこそ出しませんが本人も思つたんでせうが、私もひすした、で、今日は貴方のお顔も拜借ひ理由も聞きたいと思つてお呼立申したんですが、何よりも困るのは娘の病氣です、奈何したら宜いでございませう、」

と、諄々と述べ立てた、女は何と答ふるであらう



公告

當會議所議員半數改選期ニ付來ル十一日ヨリ十三日ニ至ル三日間當會議所内ニ於テ毎日午前九時ヨリ午後四時迄選擧及ビ被選擧人名簿ヲ縦覽ニ供ス

明治四十一年六月十日

京城日本人商業會議所

京城新報

●在留邦人 政治上の位置

韓國在留十萬の同胞が政治上に於ける位置は如何、卿等が艱難具さに嘗め盡くし、幾多の危險を冒し、或は身命を賭し、或は數次の變亂に遭遇して全く生命を失ひたるものもあり、斯くして漸くに今日の發達をなし、之が爲に列國よりも優越權を認めらるゝに至れり、

然るに此先驅健鬪者たる卿等の政治上に於ける位置を顧よ、韓國政府よりは外國人と見做されて其の意見を進言する能はず、帝國政府に對してすら之を云爲する資格なし、若し有りとすれば在留邦人にして代議士となるの外なし、然れども其撰擧たるや祖國に於てせざる可らず、故に到底言ふべくして行はれざることなり、本年の撰擧に於て在留邦人より一人の代議士出でたりと雖も在留邦人を代表せるにあらずして福岡縣より撰出せられたるなり、實際に於て在留邦人が祖國の代議士たるは多くの不便あり、爲に事實に於て容易に行はるゝものにあらざるなり、果して然らば我在留邦人は如何なる不利益を受くることあるも、韓國政府及び帝國官憲の爲すまゝに從ふの外なき乎、假令ば關稅問題の如きものにして、在留邦人の爲に甚だ不利となることあるも、何等かの都合ありて帝國官憲が韓國政府に同意するが如き場合あるも唯默する外なし、斯る出來事は關稅問題以外にも間々ある事にて其例も乏しからず、斯る場合に於て其意見を有效に發表する權能あらざる可らず、若し此權能なしとせば在留邦人は無政府の下に立てると同一なり、之れ實に危險の至りならずや、斯の如く自己の權利をも主張する能はざる如きに於ては到底意の如く發展する能はざるなり、如何に自己の不利益なることあるも、如何に自己の權利を侵さるる如き官憲の壓迫に遭ふ場合に於ても默せざる可らずとせば天下豈斯る暴虐あらんや、人或は言はむ之が爲に帝國官憲ありて邦人を保護するに非ずやと、されど帝國官憲が或る誤れる政略の爲に邦人の利益を犧牲に供するが如きことなきにしもあらず、斯る場合にも默して犧牲に甘ずべきや、之を甘ずるに於て帝國勢力の大發展に効ありとせば可なり、然れども誤謬なる政略と知りて其犧牲たることは到底甘ずべからざるなり、斯る出來事は往々散見することあり、余輩の杞憂に堪へざるは之が爲なり、假令ば韓國本位或は懷柔政策を遂行する爲に邦人の發展を第二に置くが如きこと是なり、此場合に於て之が誤謬なる政策と知りつゝ服從することと能はざるにあらずや、之をしも忍ぶべくんば將た何をか忍ばん、余輩が在留邦人の有効的意見の發展を希望するは之が爲なり、豈夫れ他あらんや

伊公、李、宋

李完用は宋秉畯を評するに彈丸を拔きたる猛虎を以てす而して宋は李完用を評するに剝製の虎を以てす而して二人ともに伊公を評するに張子の虎を以てすにらみの利かざる蓋し故ありと云ふべし

東京電報

▲首相邸の夜會

昨夜首相邸の夜會は井上侯各大臣陸海軍人實業家等四百餘人にして外國人は其の三分の一を占め内外婦人又三分の一あり餘興後宴に移り十二時散會せしが頗る盛會なりき(十一日午後發)

▲岡運輸部長の歸任

統監府鐵道管理局運輸部長岡正矣氏は十三日午後出發歸任す(十一日發)

雜報

●文武官の謁見

伊藤統監は既報の如く一昨十日午前十一時丸井陸軍少將一行を帶同し昌德宮に參内し韓皇帝に謁見し同十一時二十分退出されたり此日の一行は左の如し

陸軍少將丸井政亞、同小野寺實、陸軍步兵大佐橋本三郎、同太田朗、同向井齊輔、同加藤丈、陸軍騎兵中佐安東直康、砲兵中佐飛松寛吾、步兵中佐奧村信猛、步兵少佐原田清治、工兵少佐齋藤富熊、同三橋嘉之太、步兵大尉松下秀夫、步兵中尉髙木甚七、工兵少佐石岡猪四郎、陸軍二等軍醫正篠尾明濟、三等軍醫正宇野宗一、同大坪昌夫、同中村幸吉、同花井善吉、同此山隆助、同西春貞知、同内藤敬一、會計檢査官三輪一夫

●法官會議開會

昨報の如く大審院長以下各裁判所幹部二十二名は昨日午前九時より法部樓上に會同し裁判所開廳準備に關し打合せ會を催したるが初日の事とて任法相も列席して一場の挨拶をなせり此の打合會は約一週間にて終了する筈なり

●典獄會議

過日來法部に於て開催中なる各監獄署典獄會議は本日を以て終了する筈にて各典獄は本月十五六日頃何れも任地に向け出發し着任の上は各警察署より監獄事務の引繼ぎを受け直ちに開廳する筈

●未墾地出願處理近況

未墾地利用法發布以來本月八日迄に同法の規定に依りて農商工部に出願したる數は同法發布前に未墾地利用の許可を受け居りしものにして新法規に隨ひ認證を求めたるもの七十二件、新たに利用を出願したるもの七百十二件ありて其の面積合計六百二十餘町步に達し此の内實地調査を終へしもの二百四十九件、二百四箇所(件數と箇所と一致せざるは同一箇所に競願者あるによる)にして其の調査の結果許可の見込ありて詮議のため實測圖の訂正等を命じたる者百十一件あり其の中既に許可を與へたるもの十一件、目下許可手續中に屬するもの八件なり其の他は漸次處理せらるゝものにして近來世間に其の許可の遲々たるを目して當初同法を發布したる際と當局者が方針を改めたるに非ずやとするものある如きもこは出願の目的地が國有民有の區別の明かならざるもの或は又宮内府に關係を有せるものありて實地調査に非常の手數を要し或は願書の不完全なるため其の訂正を命ずる等の事ありために處理の後るゝものにして決して當局の方針に變異あるが如き事なしと云ふ尚宮内府關係の未墾地に關しては如何に處理すべきか未だ決せられざるも遠からず解決を見るべしと

●賊徒と農作

△厚昌郡各洞里住民は四月中旬咸鏡南道より賊徒郡内に侵入したる以來人心安んぜず商工業者は店を閉ぢ農家は耕作を廢し河山面の如きは住民は清國領へ避難せし者約三分の二に達し同面富興里及錢坪里慈城郡上長里等鴨綠江沿岸村落は賊徒の跳梁掠奪に遂ひ衣服婦女子の指環等を賣却し賊徒に與へ漸く危險を逝れたる者少からず其金額五千圓に及び慘然の狀況を呈せり目下は厚昌邑面及河山面以南中江鎭慈城郡間に賊徒なく地方平穩に歸し久しく官憲の保護を受けず且つ何物たるを知らざりしも人民も憲兵の巡察慰撫により漸次信頼安堵の狀あり一時清國領へ避難せし人民も漸次歸家し農作に從事するに到るを以て地方一体田畑少なき地なるに加へ賊徒の被害により收穫其他生産上の影響は甚しきものならんと

△江界郡は二十四面戸數八千二百八十四人口三萬六千七百八十八にして郡内外は山岳重疊耕地なく地質亦粗惡なるを以て農產物は郡内の需用に滿たす能はず日常の食物より被服材料に至る迄大部分を他地方に仰がざるべからず本年四月以來長津方面の賊徒は江界郡龍林面の廣城面附近に出沒し各部落を荒したるを以て或は後難を恐れ賊の便利を計り或は他に避難し其害を免るもの少なからず從つて田畑は荒廢し或は耕耘時期を失する等農作其他生產上影響を被るもの少からず

△渭原附近は山岳重疊平野なきを以て耕作地少なく僅に河川に沿ひたる地若くは山腹を畑とし黍粟等を耕作するに過ぎず然れども賊徒の出沒なきを以て播種耕作に及す影響なし

△楚山附近は五月初旬頃より耕作播種に多忙を極めつゝあり粟黍稻の植付を了り目下大豆の植付中なり五月下旬賊徒約五十名熙川郡内より侵入したるも一時の事にして農作上に被むる影響なし

△熙川附近は賊徒の出沒最も多き爲め秋熙面内新西里の住民にして商を營むもの多數は賊徒の侵入する毎に商品を奪はるゝを以て昨年八月以來商況大に衰へ目下に在りては殆んど業を廢し居れり郡内自衛團長面洞長等は賊徒に出金を迫られ應ぜざれば銃殺すと脅迫屢々なるを恐れ辭職を申出づるの情態なり賊徒の來る毎に牛豚を屠殺供給し新興自衛團長金成益は今回も百圓を出金せりと其他一進會員の被害は最も甚しく或は殺され或は家を燒かれ或は家族を打捨て雲山又は寧邊等へ避難し二十餘人中一人の現在せるものなしと以上の如きを以て地方の耕作上被害影響は頗る大なるものありと

△寧邊及新興里附近は賊徒の侵入なきを以て播種耕作上の影響なきも東部寧邊孟山一帶地方は賊徒の徘徊地なるを以て影響を被る事甚だ大なるが如し(未完)

●一進會の決議

一進會評議員は曩きに内田良平氏宅に集合し何事か議する所ありしが更に一昨日評議員特別會を開きたり其際決議したるは内閣總理大臣李完用に辭職を勸告すること、新任内部大臣宋秉畯に辭職せしめ一進會に復歸せしむること、匪徒を鎭壓すること等なるが此の如き決議をなしたる一進會の眞意は他に存するものありて或者に對する策略に過ぎざるなりと

●漢城自治制調査

漢城民團に於ては曾て漢城に自治制を施行せんとの議あり愈よ實行するに決し統監府に對し之が承認を求めつゝありしが近く承認せらるゝ意向あるを以て施行委員等は自治制實行に就て目下調査中なりと

●韓國鐵道の收入

本月一日より去る九日に至る韓國鐵道全線收入は客車收入六萬五千五十三圓九十一錢貨車收入四萬六千六百五圓二十二錢合計十一萬一千六百五十九圓五十三錢にして去る四月一日全線營業本位引直し以來の累計は百七十九萬壹圓六十五錢に達したりと

●運賃特典の交渉

從來仁川を經て京釜線により各地に移送される清酒並に醬油運賃は特別割引の特典を與へられたるを六月一日より仁川に於て製造する該品に限り割引する事となしたるは既報の如くなるが仁川某々當業者は商業會議所を通じて從前の通り復舊されたき旨運輸課に交渉中なりといふ

●通關業者取締規則

仁川通關業者取締に就いて嚴重なる規則を制定する事は再三報道したる所なるが過日漸く全稿を了へ來る廿日頃に發表し七月一日より實施するに至るべく該規則中には保證金一千圓納入の件を從定しあるを以て一般當業者は大恐慌を來し居れりといふ

●保稅倉庫近況

市中一般未だに不景氣の歎聲を聞くにも關はらず同倉庫に於ける貨物の出入は極めて頻繁にして係員の如きは寧ろ市中の不景氣と云ふを疑ふ者の如くなりと而ふして同倉庫に托保中の貨物にして目下最も多きは金巾洋紙洋酒洋食品等にして是等は其の數甚だ多く尚其他麥粉砂糖等も船車の着する毎に托保する者多く總べて繁忙を極めつゝあり

●賊徒歸順

昨年九月首魁李延年と親戚なるを以て其の部下となりたる李範年は首魁金春洙の部中に加入し爾來引續き本年四月迄賊徒となり時には賊徒の募集係ともなりたる者なり而して賊徒となりたる動機は首魁李延年が親戚に當るを以て同人の爲め參加し歸順願出の動機は金春洙の部下四散し且つ所在嚴探せらるゝため遂に窮して六月三日歸順願出たるものなりと云ふ

●暴徒討伐情報

△京畿道富平分遣隊は六月八日同地附近に於て約二十の賊を襲ひ三を捕へ銃器七を鹵獲す△江原道北部金剛山附近討伐の爲め春川より出したる討伐隊は六月三四兩日に亘り賊七名を捕へ銃器其他若干を鹵獲す△北靑より出したる宮内中尉の率ゆる討伐隊は北靑西北方の山地に於て五月廿三日より同廿六日に亘り賊を討伐し八を殪し銃器其他若干を鹵獲す△金州守備騎兵中隊より出したる騎兵少尉巳下十五名は六月七日咸平東方約一里半の地に於て約三十の賊を討ち其十を殪し小銃十を鹵獲す△全羅南道寶城憲兵分遣所の憲兵七名は五月卅一日寶城郡内に於て約三十の賊を擊退す賊の死傷若干小銃其他雜品を鹵獲す△咸鏡南道安邊憲兵分遣所の憲兵四名は六月八日安邊の西方三里に於て約二十の賊と衝突し之を潰亂せしむ△江原道鐵原憲兵分遣所の憲兵下士巳下六名は五月卅一日漣川郡内に於て約五十の賊を討ち十を殪し銃四其他若干を鹵獲す△黃海道瓮津憲兵分遣所の憲兵二名は六月二日瓮津の南二里半に於て約十五の賊を擊退す賊の死傷少からず△黃海道殷栗分遣所の憲兵九名は六月二日載寧郡内に於て約六十の賊を討ち二を殪し若干を傷け二名を捕ふ△江華島分遣所の憲兵二名は六月五日夜江華の北方約一里に於て賊四名を發見し之を捕へんとせしも蹤跡を失す銃器を押收す△京畿道長端郡駐在巡査は同地守備兵と共に六月三日長端郡内に於て潛伏中の賊四名を捕ふ△太田警察署の巡査は六月上旬忠清全羅の兩道に於て暴行せる賊の首魁金東臣を捕ふ△高敞分遣隊長は五月三十一日午後一時三巨里自衛團長より同地南方二百米突の高地上に賊徒集合しあるの報に接し偵察の爲め斥候を派遣したるに斥候は同日午後二時三巨里南方高地上に[illegible]三十三何れも竹槍を持ち居るものを發見し尙附近を搜索せしも賊徒を得ず其附近土人家屋にて火藥二斤彈丸十五散彈藥莢等を押收す

●仁川民會の流會

一昨日開會すべき仁川臨時民會は議員中欠席者ありし爲め流會となりたるが事緊急問題に干する事とて日時を遷延するを得ず昨日午後六時より開會したる筈なり

●仁川會議所撰擧時間

仁川商業會議所議員改選は來る廿日擧行さるべきは既報の如くなるが其時間を聞くに左の如し

第三級 午前九時より正午迄
第二級 午後一時より三時迄
第一級 午後四時より五時迄

●婦人會委員部發會式

京畿道水原在住の日韓有志婦人は先般來愛國婦人會員募集に盡力中なるが明十三日午後一時水原委員部發會式を擧行する由なるが本部役員夫人數名出席の爲め出張する由なり

●仁川小學校教科書

仁川尋常高等小學校教科圖書は京城其他の教科書を參酌し之れを定めたるが去十日付を以て理事官より認可さる

●叙勳

昨日左の如く叙勳せられたり

宮内府書記官 井上雅二
叙勳四等賜八卦章
宮内府秘書官 尹世鏞
叙勳五等賜八卦章
度支部稅關囑托白耳義國人 フエルシオ、モボハオテ
叙勳五等賜八卦章

●辭令

(十日附)

領事正六位勳四等 水久三郎
任理事廳理事官叙高等官四等大邱在勤

●仁川理事官上京

信夫仁川理事官は昨日上京せり

●橋本警視の赴任

内部警務局詰より忠州警察署長に轉勤を命ぜられたる警視橋本秀平氏は昨日朝南大門發列車にて出發赴任せり因みに同警察署は同地觀察府の移轉せしため近々淸州に移轉する筈なり

●丹羽清二郎氏

東京青年會幹事の同氏は視察を了へ一昨夜夜行にて内地へ歸られたり

●廣居支店長赴任期

今回仁川大商支店長より大阪長支店に榮轉せる廣居精一郎氏は來る廿五日仁川出發赴任の途に就く筈

●寺島警部の來任

別項記載の橋本警視警務局より地方に轉勤を命ぜられたるを以て今回宮城縣保安課長警部寺島才次郎氏警務局詰に任命せらるゝ事となり近々發表せらるゝ筈なり因みに同氏は既に來着し居れり

公人私人

△吉永助一(公州警察署長) 公務を帶びて一昨日來京不知火旅館
△青木幹造(海州地方裁判所檢事長) 同上
△鈴木一五郎(晉州地方裁判所長) 巴城館
△丸山理平(平壤民團議員) 出京中の處一昨日平壤に歸る
△澁谷太吉(海州農工銀行支配人) 出京中の處一昨日歸任
△菊地武一(平壤理事官) 一昨日出發歸任
△村山佐五郎(三等軍醫) 一昨日釜山へ
△小原爲(鐵道事務官) 馬山其他へ出張中の處再昨日歸任

●外國語學校友會

在京城東京外國語學校出身者の組織に成れる校友會は明十二日午後七時より京城日本人商業會議所に於て茶話會を開く筈なり

●大商支店長の送迎會

別項赴任の廣居氏並に新任支店長の送迎會は來る廿三日頃開催する豫定にて目下某々氏等斡旋中なりと

●看守長送別會

仁川警察上村看守長が釜山に轉任するに至りたるを以て一昨日午後七時より理事廳員の發起にて送別會開催

●近事片々

▲一進會評議員會に於て李總理及宋内相の辭職勸告を決議せり宋の位置盤石の爲乎
▲狂言も餘り内が見へ過ぎると餘り面黑くない併此細工の指揮者は妙な所に居らむ
▲柄になく強がる人は却て内心弱きもの也一進會の強勢も此類に非ざるか敢て問ふ
▲宋氏不在中完用兄弟趙重應等地方に勢力を揮はむとしたるを宋大に憤懣激怒すと
▲完用重應氏等の手段は李容九の取調ぐる所内外相應じて完用を攻めんとする狀歷々
▲宋氏今次の氣燄之が爲されど統監の庇護なくば迚も不可宋の統監に迫る所以あり
▲農商工部次官岡氏辭任の風評あり岡氏の辭任沙汰は珍しからざるも或はとも思ふ
▲宋氏と岡氏の關係を知る者に取りて尙更に意味言外にある如く感ぜらる如何にや
▲去年夏頃大阪朝日に出た勝關云々の種が奈邊にありしやを知る者はフヽンと點頭く
▲當時世人鶴原岡宋の三角同盟と風評せり其後もそう思ふ故か同盟連續の如く見ゆ
▲或人曰く岡次官は隨分如才なき人也鶴原君宋氏に好く今又曾禰子に愛されんとす
▲評の如くんば遊泳術に達者なると鶴原君にも劣らじ官人の生涯亦面倒なるかな
▲統監府多士濟々就中鶴原岡古谷の三氏群を拔くと云ふ者有果して何の群を拔くか
▲石塚君は法制に鋭意兀々たりと法令政治には此人なくて叶はぬ者夫れ々技能あり
▲音も沙汰もなきは鍋島外務なり溫厚の人可もなし不可もなければならん亦一役者
▲前郡守閔泳般なるもの泥醉して燈火を吸ひ火勢腹中に廻り即死せりと馬鹿な男也
▲皇城新報子林學博士清六氏云々と林業に就て論ず清六とは桑名の豪家故諸戸氏也
▲諸戸氏由來山林の利を說き自ら之を植林し日本一の山持となる成程博士の値あり
▲清六氏皇城新報い爲に林學博士となる遠く他邦より此謚詞を受く亦以て瞑すべし
▲露國製艦費終に否決せらる首相ストリピンの失望知るべきのみ併議員の決議至當
▲露國の財政甚だ困難我國以上也之を否決する當然我軍事費は些の刪減餘地なき乎
▲獨帝はバクダット鐵道に關し土帝と數回電報の往復をなせりと傳ふ亦悶着かな
▲獨帝の辣腕は八方に飛び廻るも何時も遣り過ぎて失敗す猴の落木とは則ち此事也

諷詩林

心機轉

密策陰謀久未除。千年魔氣迫宮居。
太皇近日心機轉。細讀聯邦編制書。

爲何事

自衛誰言期廓清。壯圖漫負舊時盟。
已稱一進爲何事。贏得雞鳴狗盜名。

●賊徒歸順 去月十五日より六月五日迄に各地憲兵隊に歸順せる賊徒は計八十五名にして累計一千七百三名なり

人は京城内に潜伏せるを偵知し五日之を逮

報する任務に在り又安翼は二月初旬賊徒の

●賊徒歸順 去月十五日より六月五日迄に各地憲兵隊に歸順せる賊徒は計八十五名にして累計一千七十三名なり

●賊徒逮捕 京城西署社稷洞前參校安斗植(六十)京城南署蓮楠洞兩班安翼善(三十)の兩人は京城内に潛伏せるを偵知し五日之を逮捕し取調たるが安斗植は一月十五日頃高陽郡に於て首魁延基浩の部下に屬し別務官として三十余名の配下を指揮し京城高陽楊州郡に於ける警察軍隊の行動を偵察し首魁に密報する任務に在り又安翼は二月初旬賊徒の群に投じ十數名の匪賊より推されて其の首領となり高陽楊州地方を徘徊し金品の掠奪を恣にしたる者なりと云ふ

雜報

●賊富平に現はる
▲首魁は諸所を荒せし奴
▲學校教員を威嚇す

輦轂の下を距る僅々六七里而も鐵道沿線の地に今時暴徒が襲ひ來るとはサテモ物騷な話なり所は京仁鐵道の沿線なる富平驛、時は去る八日午後九時頃一群二十餘名の暴徒は手に／＼銃器刀劍を携へ勢を張りて同地に來襲し土地の學校の韓人教師某なるもの〻宅に闖入し同人が其の日本人の如く頭髮を苅り且つ日本語を操つるを國家に對して不義不忠の極みとなし極力同人を威嚇したりしが頓て此の風説は四邊に擴まりしより我が守備隊にては事容易ならずと早速韓國巡査と力を竝せて現場に赴き交戰少時にして終に彼等を擊攘せしが其の際數名を死傷せしめ三名を生擒し銃器數十挺彈丸數十發を鹵獲したりと因に右暴徒等の首魁は京畿道陽川郡鄭容大(三十)と呼ぶものなるが同人は此れ迄同界隈一圓を根據として江華島邊を荒し回はせし至つて慓悍なる人物なりと云ふ

●五月京城氣象概況
京城觀測所調査

本年の平均氣壓は前月に比すれば五粍の低下を來し顯著なる低氣壓の通過四回ありて中にも二十六日黄海中部より東進せし低氣壓は各所とも其影響を蒙りたるもの〻如く當地に於ても同日午後一時より二十八日夜半まで斷續降雨し總量二十二粍七を計上し殊に元山地方は二十七日のみにても百二十六粍九の多量を測れり颶雨は西偏の風多く吹き暴風日數六日を算せり氣温は前月より四度七高昇し上旬末迄に暑氣を催せしも中旬に入りては却て低落し下旬末稍本位に復せり而て平均十四度八は殆ど同緯度なる羅島の累年平均よりも低く新潟と相匹敵せり降水量は蒸發量の約十分の二半に當り降水日數可なり多きに拘らず其量は割合に寡く十粍以上に達せし日は二日及二十七日の兩日のみ天氣は前月末より引き續き晴天なりしも十二日正午雷雨に伴ふて降雹ありし後は毎日多少の降雨を見漸く月末に至り恢復せり

平均氣壓	七五三・[illegible]		
氣溫	平均	一四・八	
	最高	二三・[illegible]	廿一日
	最低	[illegible]	四日
平均濕度		[illegible]	
降水	合計	三二・〇	
	日最多	[illegible]	廿七日
蒸發量(合計)		一六九・九	
日照時數(百分率)		[illegible]	
風	平均速度	三・九	
	最多風向	西	
天氣	雨	一四	
	雹	一	
	雷	三	
	快晴	四	
	曇天	七	
	暴風	六	

(注)氣壓、降水量、蒸發量はミリメートル、氣温は攝氏、風速度平均一秒間メートルを以て示す

●朝鮮タイムスと日比野氏 朝鮮タイムスは本日を以て創刊一週年に相當するを以て目下滯京中なる劍士日下野雷風氏を聘して來十四日仁川歌舞伎座に於て劍武術會を催し同紙讀者に觀覽せしめ尚十五十六の兩日は雷風の神刀館建設費募集の爲め引續き大會を催す筈なりと

●韓籍目錄出版 外國語學校々友會には韓國人の著述に成れる書籍の調査中なりしが今回結了せしを以て同會報の附錄として之が目錄を出版したり其の目錄は史記、前朝御製、列聖御製、御定諸書、經筵、典章、雜纂、曆書、地誌、兵書、字學、醫書、農書、佛家、諸家文集、傍流集、閨秀集、釋子、小說等各部に分類しありて韓國の文學及び諸研究者にして韓書を蒐集せんとするもの〻好材料なるべし希望者には一部原價三十錢にて頒つべしと云ふ

●偽造紙幣に注意せよ 此頃城內に偽造第一銀行券壹圓紙幣を行使するものあり行使者の如何なる人物なるか如何なる風体の者かは知らざれど一兩日前本町七丁目の某雜貨店に一人の男入り來り二十錢位の物品を購ひ壹圓紙幣を出したるにぞ店主は釣を出さんと之を熟視したるに輪廓の四方にある花形が櫻花になり居るを以て左あらぬ体にて右の男に向ひ今丁度小さい釣錢がないから何卒小さいのを吳れと云ひしに右の男は今持合せないからさ云ひしかば店主はお氣の毒ですけれど實は此の紙幣は少々不審の個所ありますからお斷り致しますと突き返したるにぞ右の男は然らばとて其儘何處へか立去りたりと能く／＼注意すべき事共なり

●猿の祟り 赤門通りに居住して日稼業を事とする淸國人張懷忠(二七)は一昨日西小門通りにて目下興行中の六軍萬國動物園を觀覽中園內の猿を揶揄する爲め唾を吐きたるに生憎同園雇人福岡縣生れの市津俊太郎と云ふが側に居りたる爲め同人の面部に掛りたりとて双方口論を初めたるが此の支那人餘程横着者と見え生意氣な口上を用ひたるものから血氣の俊太郎如何な勘忍せず持合せたる小刀を以て支那人の右肩に斬り付け長八分深さ九分の傷を負はしめたれば支那人は吃驚仰天悲鳴を上げて飛び出し一時は非常の混雜なりしが同園主松山安吉は取敢へず支那人を附近の京城醫院分院に連れ行き應急の手當てを施し其の內淸國側警官も來合せ種々取調べの上結局松山が治療費及び休業中の手當として相當の金を支出することになりて落着したりと

●内縁は遂ひに無縁 旭町一丁目飲食店下村音吉(四十)は昨年十月中愛媛縣生れの濱田アサ(三十)と内縁を結び音吉は前記の處にてアサは淸國安東縣三番通りにて飲食店を營むことゝし音吉は時々安東縣に出張してアサの監督をなしつゝありしが本年四月頃夫婦間に不和を生じ遂に手切れ話となりアサは諸道具代として金六十圓を音吉に支拂ふことゝしアサは依然安東縣にて營業しつゝありしが本月一日アサの實母が國元より來ることゝなりたるを以てアサは京城に出迎ひに來りたるにアサより一日早く實母は京城に着して音吉方に止宿したるにぞアサも音吉方に到り一昨日まで滯在しイザ安東縣に歸らんとすれば音吉は六十圓の道具代を拂はざるに於ては安東縣に歸ることならぬとアサを困らするにぞ遂にアサより其の無法を警察に訴へ出で双方警察に召喚されて鈴木警部が粹な裁判にて音吉も漸く納得しアサを安東縣に歸らすることゝなしたりと尙これには入組みたる事情ある者の如しと

●酒人を殺す 前郡守閔泳般は前度支部大臣閔泳綺氏の親戚なるを以て目下上京し三淸洞の閔泳綺氏邸に寄宿中なるが元來非常の好酒家なれば一昨日も何處で飲んだかドロンケンとなりて歸り來り已が室內に入り寢に就き寢返りせしものか枕頭のランプを引繰返したる爲め何かは以て堪るべき火は石油に移り附近の器物に燃へ付きしも熟醉せしことゝて消すことも出來ず其儘遂に窒息して死したりと

●自轉車にて人を突く 憲兵隊の小使吉村庄三郎は一昨日午後八時過ぎ公用にて自轉車に乘り本町二丁目を駈け行く時大和町一丁目石工業藤原吉松(四十)に突き掛け吉松の手の胛に負傷せしめ洋傘を破損せしめたるも素と過失に依ることなるを以て洋傘修繕費三十錢を支出して事濟み



●ヨボの只飲み 南署樂院洞統戶不明李完順は一昨夜十二時過ぎ司商洞の酒家劉某方にて三十錢の飲食をなしたるも文無しにて其の筋に引致され痛い目玉頂戴

●ヨボ車夫を毆る 十日午后八時過ぎ旭町二丁目與山留藏は農商工部前の車夫朴永仕を毆り負傷せしめたるも藥代三十錢を支出して事濟み

●行方不明 朴井洞五十二統九戶李鯆棠と云ふは十八銀行支店の山下友太郎より金錢貸借上の件にて其の筋に搜索願を出したるも行方不明なりと

●迷兒 西部養寧庫前尹泰音女十歲ばかりなるは一昨日午後家を出でゝ迷兒となり行方知れず父親は顏の色を靑うして其の筋に保護願ひを出したり

●小火 昨晩六時南署笠井洞二十八統六戶商主事金永何方より出火したるも直ちに消止む

●興行 ▲六軍動物園 嘗て記載したるが如く本社横にて興行中の六軍萬國動物園は他の興行と異なり博物場も動物園も無き韓國にあつては一寸注意を惹く興行者である尤も日本內地から韓國まで來りて所々方々を持ち歩るく事であるから種類の夫れ程多からぬは已むを得ぬことゝして夫れでも虎や蟒やの珍らしい者もあれば豪猪の奇なるもある狐狸と一概に云へど實際韓國などにて生成して小兒には狐狸を見た事も無い者があらうしインゴ鸚鵡の類猿猴類は比較的數多い兎に角散歩がてら小供の手を牽いて一見する價値は充分ある▲本町座 曩きに坂本座に興行して好評を博したる峯松一座は今回本町座にて興行中であるが例に依つて評判好く可なりの大入りを占めつゝあり▲明治齋の奇術 永樂町に於て興行中の明治齋一座の奇術は開演以來頗る評判好く種々の奇術を用ひて看客を不思議がらせて笑はせて感心させ居れり▲江川萬吉一座 浪花節芝居と云ふがあれど舞臺のれ姬樣が大聲を揚げて歐い出す不樣は又と見られた者でないが夫れとこれとは事異り江川萬吉一座は曲藝に所作事を甘く調和させて技また巽に迫る者あるを以て評判格別に好く每夜大入りを占めつゝあり

●川柳 「官舍」 吾妻屋主人

棚の干場に困る倭城臺
お隣と談合して一尾買ひ
ブリツキの春雨をきく安官舍
半煮になつて五右衞門風邪を引き
長屋中井戶が同じで喧嘩をし
蒟にやくにれ聲のかゝる大和町
朝歸り官舍のうらを廻り道
官舍だと訪ねて行けば合宿所
今夫人よく／＼見ればこん畜生
奥樣と對抗をする下女をれき
れ揃ひの金筋で出る長屋連
奥樣のあばらへきはる隣の屁

●本町座の藝題 本日の替狂言は「日本男子」全十三場にして重なる役割は仁禮大尉(いろは頼太郎)五郎兵衛、高松中將(石巻靜馬)秋月男爵(稻村文男)大工辰吉(栗山光夫)令孃國子(濱日出男)惡漢樣三(尾崎茂)大工留吉、小泉賢祐(屯署長)稻見、判士長石黒(青山太郎)榊原五郎(秋山三郎)夫人百合子(坂本雪夫)松五郎妻おこん(杉樂志夫)大工松五郎、本田公證人(峯松信夫)

●㊥平㊥民㊥文㊥庫 ▲七五十四三九と書きたる名札旭町名古屋城隣りにあり何と讀むかと見れば其の傍に「內藤與作」とあり成る程そうか(通行人)▲朝鮮人間には依然天然痘が流行して居るとか病氣の恐い事を知らぬ彼等は種痘なども格別勵行せぬ困つた者だ(無性漢)▲六軍萬國動物園は每日大入りだが虎、孔雀、蟒、豪猪等は一寸珍らしければ小學兒童は父母に手を牽かれて一見するも妙なるべし(豆兒生)▲文は書きたし書く手もわれど通な奴がもの言はぬ(落魄兒)▲靜ちやん其後相變らず盛んですか時候不順の際ですから折角御自愛あれよ(かん助)▲夏が來れば夏衣が要るし冬が來れば冬物が要る我れ／＼薄給者は金／＼やりきれた者ぢや無い偶々病氣なぞが出ると夫れこそ生きすくばり右にも左にも轉はれぬ(薄給官吏)▲一ヶ月二回位い程何か氣輕な會合をして互に眞面目に斯文を研究しては如何だろう(小俳人)

●天氣豫報(自十一日午後六時至十二日午後六時)
北又は東の風曇り
十一日午前六時各地氣象概況
北東風流行し一般に曇天なり

西の宮た樂の述懷(十二)

◎仙臺中の小僧探し

不見轉を一緒にやツた藝妓は無論極くの仲好しでムいますが其の外に又一人私と同じ年齢のが居りまして孰れ坐敷で落ち合ふやうなことがあると限つて三人が一ツ所に固まつて仕舞ふのです夫れで皆様に負けず劣らずのおキヤンでしたから或れ客様に三人組といふ名を附けられました其の三人組が寄ると觸るとキツと何かクダラない咄ばかりするのです、或晩三人がお坐敷の歸り掛けに相變らず下らない事を言ひ合つて歩いて居ましたが『チーた前さん考へて見ると女位詰らないものはないと思ふよ』『何だチ突如にソンナ極り文句を言ひ出してサ』『眞實女は詰らない此れが男で御覧じろ自分勝手の我儘を働いても世間じや何とも云いやしないマヅ早い咄が男が藝妓や女郎に熱くなツつても左のみ評判は高まらないが女が男の一人でも拵やうなものならソレこそ大騒ぎサ』『ソリやそうサ』『私はジタイ夫れが癪に障はつてならないのサ男だつて女だつて矢ツ張り同じ人間ぢやないか其の同じ人間に片手落があるといふのが分らない何に拂ふことアありやしない此れから三人氣を揃へて男に負けないやうに存分な事を働いてやらうぢやないか』『併し御同樣我儘ぢやヒケを取らない仲間だが……倘此の上にお前さん一体什麼な事を仕樣といふのサ』『お互に若い時覺ゐがあるが男といふものは厭に新しもの好きで未だ肩揚も取れぬ女を摑まへては十人が十人言ふ事を背けさか何とか御託をつくぢやアないか』『ソウ〱隨分困らせられたものサ』『ダカラ今度は此方からアベコベに往つてやらう……と思ふそだが如何なものだらう……』『アベコベつて何かへ男に言ふ事を背かせやうといふのかい』『ダガ初心な代物でなけりや面白味がない』などと酒機嫌が手傳つて飛んでもない相談を始めたのでムいますサテ相談は纏りましたが、然し旨く皆相手があるかしらと三人とも思案しましたスルト一人の藝妓が『ソリヤ此方の道りやうで無いこともないから併し此れが金持とか名譽のある家の坊つちやんでは此方とら風情のものぢや手が屆かず……といつて餘り貧乏人の子は厭だし……』と申しますから私は『ソウ好き嫌ひをいつた日にやトテも相手の見つかりツこはありやしない……ダガ如何で取り掛るなら相手を宜く見定めなきア……私今鳥渡考へたところでは何家の小僧さんが却つて宜かないかと思ふのサ、小僧さんなら餘り見ツとも無くは無し』『成程小僧さんは宜いチぢやア此れから精々宜さそうなのを三人程見附けると仕樣ぢやないか』といふことに相談が纏りまして随分呑氣なお話ですが其の明る日から三人氣を揃へて仙臺中の小僧さんを探すことゝなつたのです(つゞく)

